



2018
平成30年

3

誌面に掲載した記事・写真等の無断複製・転載等はお断りします。
お問い合わせ・ご意見は狛江市地域活性課へ

発行 ● 狛江市地域活性課
〒201-8585 狛江市和泉本町 1-1-5
☎ 3430-1111 FAX3430-6870
Email=wacco@city.komae.lg.jp

編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press
〒201-0003 狛江市和泉本町1-35-3
ル・ミリオン・イイダ3階 A号
☎ 3430-6617 FAX3430-6743

地域に根付くボランティアの心

地域福祉②



協働のかたち

＝最終回＝

市内では多くの団体や個人が地域福祉の向上をめざし高齢者の施設や病院などでボランティア活動を行っている。

こまえ苑

社会福祉法人狛江福祉会が運営するこまえ苑(岩戸南4-17-17)では特別養護老人ホーム、デイサービスなどで団体や個人合わせて6団体、約60人が定期的にボランティアを行っている。活動の内容は洗濯たたみ、喫茶サービス、高齢者のお話し相手、配膳、将棋、麻雀などゲームの相手、衣類の繕い、歌や楽器演奏など幅広い。

ボランティアは60～70代が中心で、女性が約8割を占め、「社会の役に立ちたい」「親が施設のお世話になったお返しに」などが活動を始めた理由だという。

10数年前から慰問に訪れている峰明会は、小山峰明(本名・伊藤久美)さんが指導する津軽三味線のグループ。毎月第2火曜日に小山さんと会員数人がホールで民謡などを演奏、入居している高齢者も一緒に歌や踊りを楽しんでいる。同会では、市内の他の施設や老人会の食事会へも慰問に訪れており、小山さんは「高齢者とともに演奏を楽しんでいます。お弟子さんたちにとっても勉強や励みになります」と話している。

問い合わせ ☎ 3489-2404 こまえ苑。

こまえ正吉苑

社会福祉法人正吉福祉会が運営するこ

まえ正吉苑(西野川12-27-23)では、特別養護老人ホーム、デイサービスなどで20を超える団体と個人合わせて100人以上のボランティアが趣味や

特技を生かして活動している。内容はシート交換や配膳、洗濯物たたみ、歌や楽器の演奏、将棋や囲碁の相手、ガーデニングなど多岐にわたる。

高橋ルリ子さんは3年近く前から友人2人とともに月1回訪問、アロマハンドトリートメントの施術をしている。血行促進や脳の活性化などの効果が得られ、1回で約12人の手にオイルトリートメントを行っており、利用者は「手がつやつや、ピカピカになった」と喜んでいる。高橋さんは「喜んでもらえるうれしいです。これからはボランティア仲間をもっと増やして、より多くの人に提供できれば」と話している。

こまえ正吉苑二番館(西野川4-8-8)はオープンから2年と日が浅いため、まだボランティアは少ない。



こまえ正吉苑でアロマハンドトリートメント



こまえ苑で演奏する峰明会の会員たち



さくらがわカフェでピアノ演奏

荒井さんは「母が正吉苑のデイサービスで世話になっているので、そのお返しをしたいと思った」と話しており、昨年12月には音楽仲間や教え子とクリスマスコンサートを開き、入居者を楽しませた。

問い合わせ ☎ 5438-0555 こまえ正吉苑地域包括支援センター。

慈恵第三病院

東京慈恵会医科大学附属第三病院(和泉本町4-11-1)では現在、9人が病院ボランティアとして活動している。

専用のエプロンを着て、総合案内所などで病院の施設の案内や自動精算機の操作法の補助、診療科などへ車イスを押して案内するなどの活動を行っており、外来患者などに喜ばれている。

6年前から活動している竹安祐子さんは「この病院に入院して親切にもらったお返しに始めました。OA化が始ま



自動精算機の使い方を教える病院ボランティア

ったところで機械の操作がわからない人から感謝され、知り合いになった患者さんと話すなどやりがいがあります」と話している。

また、小児病棟では入院中の子に本の貸し出しや読み聴かせをする日本病院患者図書館ボランティアが活動している。

同院ではボランティアを随時募集中で詳しくは同病院ホームページの「病院ボランティア募集」(http://www.jikei.ac.jp/hospital/daisan/volunteer.html)参照。問い合わせ ☎ 3430-3612 慈恵第三病院管理課人事係。

狛江第三中学校

狛江第三中学校生徒会と銀杏募金実行委員会は、銀杏募金や狛江駅前



狛江市民まつりで銀杏募金

のフラワーポットの管理、通学路の清掃など校外でのボランティア活動に取り組んでいる。

銀杏募金は生徒会の発案で平成3年の雲仙普賢岳噴火の被災地救援から始まった26年間続く同校の伝統的な活動で、昨年からは各学級から委員を出して袋詰め作業などを行う方式に変わった。校内にあるイチヨウの実を収穫して袋詰めする作業は、いまも全校で取り組み、狛江市民まつりの会場などで生徒会役員と同実行委員が募金活動を行い、協力した人に銀杏を渡すもので、集まった募金は主に熊本地震などの被災地へ贈っている。

生徒会長の加藤風奈さんと同実行委員長安東柚稀さんらは「イチヨウの実を取り出す作業は臭いがひどくてたいへんですが、毎年市民まつりで声をかけてもらうのが励みになります。また、自分たちの街を自分たちできれいにすることで役に立てばうれしい」と話している。

狛江高校JRC部

都立狛江高等学校JRC部(米澤朱乃部長)は、学校の内外でさまざまなボ

ランティア活動に取り組んでいる。

JRCはJunior Red Cross(青少年赤十字)の略で、赤十字の精神に基づいて児童や生徒が学校教育の中で活動を展開している世界的な組織。

狛高JRC部は校内で花のプランターの世話、エコキャップの回収などを行うほか、校外でもボランティア活動を行っている。狛江市社会福祉協議会の「学習支援ステーション コマゼミ」で小・中学生に学習指導するほか、視覚障がい者の避難訓練の補助、ボランティアのつどいや狛江フェスティバルへの参加、熊本地震やあしなが育英会などの募金活動も行っている。

高校に入って初めてボランティア活動を経験した部員がほとんどだが、「募金活動の時、多くの人に声をかけてもらいやさしさを感じた」「目の不自由な人の誘導方法など、知らなかったことが経験できて良かった」と話している。



花の世話をする狛江高校JRC部の部員

子ども食堂

「NPO法人狛江子ども食堂」は、子どもの笑顔と元気が出る場所をつくることを目的に、子どもの食育とだんらん、添加物を使わない本物の味を教えようと平成28年に市内で最初に始めた。現在は、上和泉地域センターなど4カ所の地域センターで合わせて月5回、子どもたちに夕食や昼食を提供している。訪れた子どもたちは一緒に遊んだり、宿題をしたりして交流を深めるほか、調理や食器洗いなども手伝っている。

問い合わせ ☎ 090-1766-6992 市川さん。

このほか子どもや地域の人に食事や交流の場を4つの団体が提供している。

「みんなの居場所」(①主な会場=西河原公民館②主な開催日=毎月第2日



子どもも参加して食事を作る狛江子ども食堂

☎ 090-6197-6678 松崎さん)、「こどもの多摩里食堂」(①多摩里集会所②毎月第2日 ☎ 090-5527-3132 西尾さん)、「ごはん+居場所 おかえり」(①みんなの広場②毎月第4日 ☎ 090-1208-3823 宮川さん)、「月末食堂」(①スペース102②毎月末前日 ☎ 090-1803-8319 市原さん)。

フードバンク狛江

NPO法人フードバンク狛江(中和泉3-12-3 パインハウス狛江101号室、田中妙幸理事長)は、個人や企業から寄付された食品を生活困窮者に無償で届ける活動を行っている。

平成26年に発足、市を通じて配布するほか、直接連絡してきた市外の生活困窮者や市内の19の福祉団体などに食品を提供している。今年度は約7トンの食品を集め、194世帯の家庭に延べ約800回食品を配布した。また、活動の趣旨をPRするための講演会や、市民から食品の寄贈を受けるフードドライブを実施している。

田中代表は「日本は大量の食品ロスが出る一方で、食べ物がない困っている人がたくさんいます。そうした現状を解決するため、多くの人の理解を得て、活動を充実させていきたい。企業や個人の協力は増えたが、食品を分けるボランティアを増やしたい」と話している。

問い合わせ ☎ 5497-0272 フードバンク狛江。



フードバンク狛江に集まった食料品